

1. 栄養の科学と技術の振興事業

食と栄養の科学および実用技術を振興させる事業であり、第40回福岡県栄養改善学会を開催し、栄養指導・食事療法・栄養管理に関する調査研究および業務の成果や新しい試み（実践）など15演題が発表された。また、アジア栄養士会議（平成26年8月台湾で開催）で発表した2名の会員を特別に表彰し、国際感覚を身につけ世界に通用する管理栄養士への活動を願い若い会員へ国際社会への参加を促した。さらに特別講演は、平成27年（2015年）から適応される「日本人の食事摂取基準（2015年版）」の概要について、神奈川県立保健福祉大学学長中村丁次先生に講演いただき、日本人の食事摂取基準（2015年版）策定の方向性、特に高齢化の進展や糖尿病等有病者数の増加を踏まえ、平成25年度に開始した健康日本21（第二次）において主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底を図ることが基本的方向として掲げられていることや、健康の保持・増進と共に、生活習慣病の予防については、発症予防と共に、重症化予防も視野に入っているなど、関連する各種疾患ガイドラインも十分に理解する必要性等を分かりやすく講演いただいた。600名余りの参加者が管理栄養士・栄養士の業務の基本を学んだ。

・第40回福岡県栄養改善学会

栄養指導・食事療法（栄養管理）に関する調査研究および業務上で成果があった事例や施設における新しい試み（実践）など、（15演題）管理栄養士・栄養士からの研究発表が行われ、また、「日本人の食事摂取基準2015年の概要と活用～病態を考慮した食事摂取基準の考え方～」と題して、神奈川県立保健福祉大学学長（前日本栄養士会会長）中村丁次先生にご講演していただいた。
開催日：9月23日（火・祝日）

2. 県民の健康づくりの担い手となる人材の育成

県民が、質の高い栄養指導及び食事療法を身近に受けることができるように、本事業は高度の専門的技能とともに、一人ひとりのかけがえない命を尊び慈しむ姿勢を身につけた管理栄養士・栄養士を輩出するために各種の研修等に取り組むものである。事業の柱は、卒後教育制度として実施される諸種の研修事業であり、基幹研修事業と拡充研修事業とからなる。

今年度からはこれまでの生涯学習から生涯教育へとシステムが変更された。キャリア支援の一環として認定制度を取り入れた新しい生涯教育を行った。これまでの基幹研修はミニマムスタンダードとなる基本研修、拡充研修は職域を中心とした専門知識を深める実務研修として再構築した。

これらの事業は、何れも県民の健康増進、疾病予防、疾病の重症化予防等の目的を達成するための手段と位置づけられている。

平成26年度の主な研修事業は次の通りである。

（1）基幹研修事業

卒後教育の基幹研修は、すべての管理栄養士・栄養士を対象として実施し、専門職業人としての強靱な基礎知識を身につけさせることを目的とする。

・生涯教育研修会

専門職業人として、日々進歩する医学・栄養学に立脚した「栄養管理技術」「栄養指導」や「日本人の食事摂取基準」などの必要不可欠な基礎知識を学ぶことができる基幹研修の中軸をなす研修会である。初任者から中堅者を対象に、最新の診療ガイドラインにそった食事療養、栄養管理の基礎を学ぶ

場でもある。

26年度の研修内容は、

- 【生涯教育認定制度と管理栄養士・栄養士スキル担保について】①自分の未来をデザインするために
【2-2 栄養の指導】②社会が求める管理栄養士・栄養士の「栄養の指導」の技を極めるために
【2-1 国民の健康の増進の総合的な推進】③健康日本21と福岡県の健康施策の方向性
【2-4 栄養（食物）と医薬品の影響】④これだけは押さえて！食物と医薬品の相互作用を徹底解説
【1 専門職としての役割と倫理要綱】⑤栄養士としての意識を高めよう
【2-3 根拠に基づいた栄養管理Ⅰ・Ⅱ】⑥各種疾患のガイドライン情報と活用方法
【4-9 栄養管理記録】⑦SOAPを用いた栄養管理記録をマスターしよう
【4-8 栄養管理の実施・モニタリングと評価】【4-9 栄養管理記録】
⑧対象者にあわせたモニタリング法を徹底習得栄養サマリーもこれで完璧！
【4-2 栄養スクリーニング】⑨栄養スクリーニングの意義と方法
【4-2 栄養スクリーニング 4-3 栄養アセスメント・栄養診断 4-4 栄養アセスメントにもとづいた栄養管理】⑩実際にやってみよう！栄養スクリーニング・栄養アセスメントを学び、的確な栄養管理計画を立てる
【3-1 対象者の把握 3-2 栄養食事基準 3-3 食品構成】⑪対象者の把握と栄養食事基準・食品構成
【3-4 献立計画 3-5 実施献立 3-6 献立評価】⑫献立立案と献立の評価
【4-1 栄養ケアプロセス】⑬根拠に基づいた栄養補給法の選択
【4-3 栄養アセスメント・栄養診断Ⅰ・Ⅱ】⑭栄養診断の基本的な考え方とその方法 検査データの読み方・栄養指標
【トピックス歴史に学ぶ栄養学と栄養管理】⑮黒田勘兵衛とリフィーディングシンドローム
【栄養管理・栄養指導にいかす糖尿病の最新薬物療法】
⑯～完全マスター！インスリンと経口血糖降下薬の特徴を理解しよう！～
【急性期・リハビリ・療養・在宅ですすめる高齢者の摂食嚥下機能回復に向けたスキル習得講座】⑰
【基礎から学ぶ楽しい統計学と研究デザイン】
⑱～これでもう迷わない！研究発表に自信がつく統計の基礎知識～
・統計学って何のためにあるの？～考え方の基本を知ろう～
・犯人を捜せ～検定の考え方～
・下手な鉄砲も数撃ちゃあたる
・臨床研究に必要な視点どんなことが結果の信頼性に影響する？
・飲酒は肺がんのリスクを高める？本当にそうなのか？
上記 18 講座を県内の 3 地区（福岡、北九州、筑後）で 12 回開催した。

・支部研修会・新人研修会

各職域に共通した管理栄養士・栄養士の基本的知識やスキルを維持向上するための基幹研修として県内の 3 地区（北九州、筑後、筑豊）において 6 回開催した。

【食事形態を考えよう】

- ①嚥下食の現状 ②地域連携における嚥下食の統一化について

【ライフステージにおける糖尿病治療】

- ①幼児期、学童期の糖尿病治療 ②糖尿病に対する行政の取り組み

【代謝の基礎】

- ①栄養素の代謝

【臨床心理学を学ぼう】

②栄養指導に役立つコーチングの技術：

【栄養の指導 衛生管理】

①福岡県栄養士会、日本栄養士会が目指す研修内容の考え方について

②大量調理衛生管理マニュアルの改正について

【栄養アセスメント・栄養診断】

①血液検査から栄養状態がわかる・なぜ血液検査が必要な？
の6研修であった。

(2) 拡充研修事業（特定職域その他の研修事業）

拡充研修は、基幹研修を補完し発展させるものである。医療・福祉・公衆衛生・勤労者支援・研究教育・学校健康教育・地域活動の7職種の業務特性に即した専門性の向上および各種課題に応じた研修会を開催した。

・医療事業部研修会

医療に関わる管理栄養士・栄養士や栄養・食事関連の医療従事者を対象として研修会を実施した。高齢化社会を迎える中、疾病構造の変化や食事療法の複雑多様化が進んでおり、病態や食事療法についての最新情報やより高度な知識・技術を学ぶことにより、個々の傷病者に対応した適切な食事の提供や栄養食事指導ができる能力・技術を身につけさせることを目的とした研修会を開催した。

平成26年度事業

福岡【指導力の養成 栄養ケア・プロセス】

～診療報酬改定のポイント、多職種との連携・地域連携～

- ・医療・介護診療報酬改定 栄養関連のポイント
- ・生涯教育認定制度と専門分野管理栄養士・栄養士の育成
- ・人として生きるためのリハビリと栄養療法～サルコペニアとカヘキシア～

福岡【栄養ケア・プロセス】

～栄養アセスメント、栄養管理・栄養補給法～

- ・消化吸収機能と栄養素の代謝の基本
- ・消化器疾患(おもに消化管切除)
- ・栄養補給法の適切な選択(経静脈・経腸・経口の選択の根拠)
- ・栄養士に必要なフィジカルアセスメント技術とポイント
- ・栄養剤選択と種類 最新状況
- ・栄養補給法の評価 ((合併症予防・モニタリング指標・演習)

福岡【病態栄養学】～循環器疾患～

- ・高血圧治療ガイドライン2014(JSH2014)改訂のポイント
- ・心臓の機能と心臓リハビリテーション
- ・循環器疾患のガイドラインに沿った栄養管理
- ・栄養指導演習

福岡【病態栄養学・栄養ケア・プロセス】

～指導力の抑制 消化器疾患 栄養指導～

- ・入院時食事療養と栄養管理関連診療報酬の運用時注意点
- ・栄養剤情報提供
- ・肝疾患の病態と治療ガイドライン

- ・肝疾患の栄養管理・栄養指導 症例検討

筑後【病態栄養学 栄養ケア・プロセス】～糖尿病 栄養指導～

- ・新食品交換表改訂のポイントと栄養食事指導への活用
- ・糖尿病病態別治療薬の選択と栄養管理～新薬 SGL T2 阻害薬を中心に～
- ・糖尿病治療薬から学ぶ病態と栄養管理
- ・栄養指導症例

北九州【病態栄養学 栄養ケア・プロセス】

～消化器疾患 栄養管理 栄養指導～

- ・I B D(炎症性腸疾患)とは
- ・治療方針とガイドライン
- ・胃潰瘍性大腸炎の診断と分類、治療法、栄養療法
- ・クローン病の診断と分類、治療法、栄養療法
- ・I B D(炎症性腸疾患)の栄養管理の実践 ・症例検討

・福祉事業部研修会

福祉施設に従事する管理栄養士・栄養士、福祉施設職員などを主たる対象として研修を実施するもので、研修内容は 乳幼児、高齢者及び障がい者など、それぞれに対応した適切な栄養管理・栄養指導を行うことができる技能を身につけさせることを目的として研修会を開催した。

平成 26 年度事業

【摂食・嚥下機能について】

- ・講義・演習「摂食機能の発達とその障害」
- ・グループワーク・演習

【対人関係スキル】

- ・高齢・障がい者とのコミュニケーションの特徴
- ・幼児・児童とのコミュニケーションの特徴
- ・相手の意向を聴く理解するには
- ・相手の気持ちを理解するには
- ・グループワーク・演習

・公衆衛生事業部研修会

県内の行政機関に勤務する管理栄養士・栄養士（行政栄養士）を主たる対象として研修会を実施するもので研修内容は、事業の企画能力、乳幼児から高齢者まで個々のライフスタイルに応じた適格な栄養指導ができる能力・技術を身につけさせることを目的として研修会を開催した。

平成 26 年度事業

【食物アレルギー】

- ・食物アレルギーの最新情報
- ・地域住民におけるアレルギー対応ガイドライン
- ・代替食の考え方
- ・食物アレルギーの原因や病態について
- ・現場で実際に行っている食物アレルギー対応
- ・演習(グループワーク)

・勤労者支援事業部研修会

平成 26 年度は他職域研修会に合同参加した。

・研究教育事業部研修会

県内の管理栄養士・栄養士養成施設や大学、食品会社等の研究所に所属する管理栄養士・栄養士（研究教育栄養士）を対象として研修を実施した。

研修内容は、高度専門職業人教育の技法に関する知識・方法論、および、教育対象たる現代の大学生の価値観や生活全般の理解につながる内容等を取り上げた。

平成 26 年度事業

【教育のあり方について】

- ・保健・医療・福祉分野における管理栄養士・栄養士業務の現状
- ・管理栄養士・栄養士養成に対して現場が求めるもの
- ・「養成のあり方」に関する今後の展望(制度・教員研修・国家試験等)
- ・生活習慣病の予防と治療に効果的な運動療法
- ・認知症予防に効果的な運動
- ・「スロージョギング」とその効果

・学校健康教育事業部研修会

主として栄養教諭・学校栄養職員として県内の学校・共同調理場に従事する管理栄養士・栄養士を対象に研修会を実施するもので、研修内容は、食を通して児童生徒の健康の保持増進に寄与するため、児童生徒を対象とした食育及び給食管理などに関する高度の専門的知識・技能を身につけさせることを目的として開催した。

平成 26 年度事業

【食事管理プロセス】

～配膳・調理～・師範「スチームコンベクションオーブンを活用した調理」

- ・調理実習・講義「スチームコンベクションオーブンを活用した調理(実践編)」

・地域活動事業部研修会

地域住民の身近な食の専門職として地域に根ざした活動を行う管理栄養士・栄養士（地域活動栄養士）を主たる対象として研修会を実施した。

研修内容は、活動対象が妊産婦・乳幼児・学童・思春期・青年期・壮年期・高齢期まで幅広いため、一人ひとりの一生に関わる身近な存在として、年齢や状況に応じたきめ細かな栄養指導・食事療養ができる能力を身につけさせることを目的として開催した。

平成 26 年度事業

【地域経つ同栄養士としての基本】 その 1・その 2

～有資格者としての特性と役割、士業のあり方

- ・地域活動栄養士とは（特性）
- ・事業活動の実践と今後の展望について
- ・地域の中での立ち位置を明確にするためには
- ・演習 私にできること 事業立案とマーケティングの具体化

(3) 研修に関わる付随事業

・「病院等栄養管理の基本と実際」の刊行

平成 25 年 1 月に改訂した「病院等栄養管理の基本と実際」の研修会での活用、管理栄養士・栄養士への頒布・販売をこれまでどおり実施した。

・研修会情報の提供 (広報部)

当会が企画する研修会情報を「研修会案内」として年 6 回発行し、研修機会の拡大を図った。

・研修会申込みシステムの運用

当会が運営する研修会システムにおいて、WEB 上で研修会情報の確認や申込みが可能な研修会システムの運用を行った。なお、本事業は日本栄養士会会員 WEB システムへの移行により平成 26 年 9 月をもって運用を終了した。

・日本栄養士会会員 WEB システムの運用

日本栄養士会が運営する会員 WEB システムに研修会情報を登録し、会員や県民に研修会情報を提供した。

3. 健全な食生活のための県民の自律の支援 (県民支援部)

本事業は、生涯を通じた食育や健康づくり、生活習慣病予防等を目的に地域に密着して実施するもので、講演会、食生活診断、栄養指導、調理実習、展示等を通して、正しい知識の普及と実践への支援を進める目的で事業を行った。

また、疾病の重症化予防や寝たきり予防、高齢者の低栄養等を改善する介護予防事業及び食事療養を必要とする傷病者への栄養食事指導を行うことにより QOL の向上を高める等、食と栄養の指導や支援を通して県民の公衆衛生の向上に寄与することを目的として事業を行った。

平成 26 年度の事業は以下の通りである。

(1) 栄養ケア・ステーション事業

栄養ケア・ステーションは、市町村や医療機関(診療所)、社会福祉施設等に栄養に関する業務について協力する事業であり、地域住民の健康維持・増進及び疾病予防・治療に寄与することを目的とするものであるが、広く管理栄養士・栄養士の活動を県民の皆様にご覧いただくことを目的に、期間限定(平成 26 年 6 月 1 日～12 月末日)の常設型の栄養ケア・ステーション「栄養ラボ天神」を福岡市中央区天神の調剤薬局内に設置した。管理栄養士による栄養相談をはじめ、介護用食品、特別用途食品等の展示と使用方法の実演、月 1 回のセミナーとテーマにあわせた料理の実演などを開催し多くの県民の皆様にご利用いただき、盛況時に幕を閉じた。26 年度の主な実施内容は、以下の通りである。

- ① 栄養ケア・ステーション「栄養ラボ天神」(福岡県栄養士会主催)
- ② 高齢者食生活改善事業 (北九州市) ③ 食生活改善推進委員会における訪問事業 (北九州市)
- ④ 食生活改善推進事業 (志免町) ⑤ きたきゅう健康づくり応援店アドバイザー (北九州市)
- ⑥ 栄養士会クッキングセミナー (西部ガス) ⑦ 妊婦教室 (北九州市)
- ⑧ 酪農体験ちびっこファームステイ (福岡県酪農業協同組合)
- ⑨ 調理スタッフ養成技能講習会 (福岡県シルバー人材センター連合会)
- ⑩ 講師派遣 (福岡県社会福祉協議会)

(2) 平成 26 年栄養ケア活動支援整備（補助金）の事業（厚生労働省）

「地域における訪問歯科診療と連携した栄養ケアサポート」

関係団体である福岡県歯科医師会との連携にて在宅訪問栄養支援の計画を行い、栄養ケア推進事業検討会にて十分に検討を行い計画を実施しました。実施地区は、医科連携をしている訪問歯科診療および訪問歯科診療をおこなっている直方市・糸島市とし訪問歯科診療は、歯科医師、歯科衛生士と管理栄養士にて訪問した。また、各関係団体の協力のもと、評価判定委員会、推進連絡協議会、推進事業検討会、ワーキング会議を実施、事業の経過・結果をまとめ厚生労働省に報告した。

(3) 地域包括ケア会議推進支援事業

市町村が構築する地域包括ケアシステムを支援するため、市町村が開催される地域ケア会議にアドバイザーを派遣した。また、地域ケア会議模擬ケア会議にも参加した。

(4) イベントにおける栄養相談事業

県民が多く集まる機会（イベント）において栄養相談・食事指導を行い、県民の食の自律を図るものであり対象は県民一般である。

・健康 21 世紀福岡県大会

県民の自主的健康づくりを支援・健康寿命の延伸を旨とし、福岡県と県内の健康づくり関係団体が連携して開催した。筑後支部担当で、11 月 16 日（日）九州芸文館にて実施。

栄養相談、食事バランスチェック (SAT システムを利用した食事チェックを行った) 来場者 218 名

・地域健康フェア

市町村・医師会・薬剤師会・自治会・地域諸団体と連携のもと、食育推進や生活習慣病の予防・治療について地域住民の意識向上を目指して、実施した。

・市民糖尿病教室

糖尿病及び合併症予防に関する正しい知識の普及を図ることにより、QOL の高い暮らしの実現を目指して毎年、糖尿病週間に医師会、栄養士会、薬剤師会、糖尿病療養指導士会等との協働のもと、福岡、北九州、筑後、筑豊の 4 地区で開催した。

・歯の健康教室

口腔の健康づくりに関する正しい知識の普及、歯科疾患を予防する適切な習慣の定着を目的として開催した。

(5) 市民公開講座（セミナー）

県民の健全な食生活を自立的に営む力を育むために、栄養の専門職である管理栄養士・栄養士が知識や知恵、実用技術の普及を行う事業である。

・食育推進実践セミナー

食育の推進をテーマに、アクロス福岡において、年に 12 回（毎月第 2 火曜日）講演を行い、広く県民に対し、食生活の質の向上、食事を含む生活習慣の見直しと改善に役立つ知識や知恵、実用技術の普及を行なった。本年度は参加者の増加がみられた。時節を捉えたテーマの選び方や、講師の入れ替わりなどを積極的に図り、常に新鮮な内容になるべく努力していきたい。

・健康セミナー

本会および看護協会、放射線技師会、臨床検査技師会で構成された福岡県医療団体協議会が公開講座を行う。医療に携わる専門家が、県民と一緒に健康増進、疾病の重症化予防をより深く考える機会とするもので、26 年度のメインテーマは「超高齢社会の医療」で 2 月 21 日に開

催され、参加者は100人であった。特別講演は「超高齢社会における地域医療のありかた」がテーマであったが、栄養士会の会員の参加が少なかったのは残念だった。超高齢化社会についての対策に栄養士も他職種と積極的に連携して協同すべきではないだろうか。

また、「食と健康推進フォーラム」は、県民が自主的に取り組むことができる健康づくりを支援し、県民の健康に寄与することを目的に1月30日に開催され、参加者428人と「食と健康」についての県民の意識の高さがうかがえた。

・県民料理教室

本年度の新規事業で、県民に対して、「高齢者の健康に関する料理教室」という位置付けで、地域活動事業部が主体で企画運営をした。県民に周知不十分で栄養士会々員の参加のほうが多かった。2地区7会場で開催したが、後期日程になるにつれ県民の参加も若干増えてきたのは、次年度に向けて希望がもてる。費用対効果も含め、継続・定着させるべく努力をしていきたい。

(6) 栄養情報コミュニケーション事業 (広報部)

・ホームページ事業

食育や健康づくりなど県民を対象とした地域イベント案内や季節に応じた献立、県産農産物を使った料理レシピを掲載した。また、会員にむけたスタッフ募集では、地域における栄養ケア活動への積極的な参加を呼び掛けた。

実施内容として

1. 定期更新作業（奇数月 年6回）、必要な場合には随時更新
2. 「栄養ふくおか -WEB版-」の掲載
3. 研修会システムの保守・運営（平成26年9月末をもって日本栄養士会会員WEBサービスへ移行）
4. 今年度の訪問数は、47,399件（平成27年3月26日現在）となり、1日当たりの訪問数は前年度49.7件/日から131.7件/日と前年より265%増加した。

4. 県民の健康を育む食環境の整備

県民の健全な食生活の形成に寄与しうる地域社会の諸資源（人・物・仕組み）を有機的に結び付けその機能を改善・活性化させることにより、望まし食環境の整備を図る事業である。各行政機関における各種委員会や協議会等には積極的に参画し委員会を通じた連携・協働関係の構築に協力し、その連携と活動の強化により公衆衛生の向上に寄与した。

今年度の参画した主な委員会・協議会数は18会議である。

5. 法人運営・管理

重要な意思決定会議および主要な法人事業の運営に関しては、総会を平成26年5月31日、平成26年度福岡県栄養士大会・第40回福岡県栄養改善学会を平成26年9月23日に開催した。重要な意思決定会議（理事会）を年6回開催した。